

【取材調整可能・有識者(大学教員)のご紹介】

2023年も残りわずか！観光産業がV字回復**一方、インバウンドが日本経済に与える課題とは？**

インバウンド増加によるオーバーツーリズム 期待できる経済効果と課題について解説

摂南大学 経済学部 経済学科 朝田 康禎(アサダ ヤスサダ)准教授

摂南大学（大阪府寝屋川市、学長：荻田喜代一）では、9学部17学科にわたる専門分野を持つ教員への取材を受け付けております。今回は、**摂南大学 経済学部 経済学科の朝田 康禎准教授**を紹介いたします。

2023年も残りわずかとなり、年末年始が近づいてまいりました。コロナが落ち着いた影響もあり、新幹線の乗車率も高く、ホテルの稼働率もコロナ前の水準に戻りつつあるなど、観光産業に活気が戻ってきたように感じます。

そんな観光現場の活性化に拍車をかけるように増加しているのが、インバウンドです。JNTO（日本政府観光局）発表の2023年4月訪日外客数推計値は約195万人。200万人に迫る勢いとなっており、2019年同月比では66.6%にまで回復し、個人旅行再開以降では最高を更新しました。

外国人にも観光スポットとして人気の京都で外国人観光客が急増したことで、オーバーツーリズムが深刻化しています。バスが観光客で混雑し、住民が乗車できないなど、居住者の生活にも影響が出ています。

観光産業がV字回復を見込む一方で、オーバーツーリズムやバスの混雑など、課題も発生しています。そんな観光産業の活性化で期待できる経済効果とそれにとまなう今後の課題など、本件に関わるお話を幅広くお話可能です。

ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

◆プロフィール

所属 : 経済学部 経済学科
職位 : 准教授
学位・資格 : 博士（経済学）
研究分野 : 観光経済学、文化経済学、地域経済学



朝田 康禎 准教授

◆お話しできること

- ・関西における観光客・旅行者の地域分布動向
- ・関西におけるオーバーツーリズム（観光客の過多）の現状
- ・自治体や観光関連団体などにおける観光データの活用方法
- ・大阪の人口増加と女性就業者の転入状況

※できる限り調整をさせていただきますが、取材のタイミングによってはお受けできない可能性もある旨ご了承ください。

【報道関係者様のお問い合わせ先】

摂南大学広報事務局（アンティル内） 担当：佐藤、阿部、木村、水原、藤井

TEL : 06-6225-7781 E-MAIL : setsunan_pr@vectorinc.co.jp